

国内外の図書館・博物館所蔵の明治時代に刊行された歴史的な海図[†]

佐藤 敏*, 寄高三和子*

Historical nautical charts published by the Japanese Navy during the Meiji era and owned by domestic and overseas libraries and museums[†]

Satoshi SATO* and Miwako YORITAKA*

Abstract

We surveyed the Japanese nautical charts published in the Meiji era in the collections of domestic and overseas libraries and museums in 2019. As a result, we found the following new facts.

The Tokyo National Museum has in its holdings the charts exhibited at the first and third National Industrial Exhibitions held in 1877 and 1890.

The Leiden University Libraries in Netherlands own two volumes of the *Dai-Nippon Kaigan Jissokuzu*, the atlas of Japanese nautical charts that the Japanese Hydrographic Office compiled based on its own hydrographic surveys in its founding period.

While it is known that the Kyoto University Museum owns many charts that were published in the Meiji era and stamped with “Donated by the Navy”, some documents of the National Archives revealed that these charts were donated by the Japanese Imperial Navy in 1911, upon request from the Kyoto Imperial University.

1 はじめに

1923年の関東大震災で当時の水路部庁舎は全焼し、保管していた資料の多くは焼失した。それまでにわが国が刊行した海図及びその印刷原版の多くも焼失したとされている。その後、水路部では肝付兼行第4代水路部長の退任に際して寄贈した海図を遺族から返還してもらうなど過去の海図の収集に努めたが、最初海図刊行から半世紀を経過した時点で初期の海図を収集することは難しかった。そのため、現在、海洋情報部が保管していない明治時代の海図が多数存在する。

一般財団法人日本水路協会が2010年度から2年間で実施した事業「海洋の歴史的資料等の保存及び公開」では、1945年までに海軍が刊行した海図を所蔵している国立国会図書館、国立公文書館、筑波大学附属図書館の3館の旧版海図の画像化を行っている。特に国立国会図書館からは旧版海図689枚を借り受けて画像を作成している。

また、東京大学史料編纂所では、旧内務省が地誌編纂事業廃止後に引き継いだ史料が赤門書庫と呼ばれる耐火建造物に保留されていた。この保留されていた史料「赤門書庫旧蔵地図」の整理が

[†] Received July 30, 2020; Accepted October 29, 2020

* 情報利用推進課 Chart and Marine Information Service Division

2010年から行われ、全700点中の301点が明治前半期まで(1890年6月まで)に刊行された海図であることが明らかとなった(鈴木, 2015)。

以上の近年の調査により、図書館等に所蔵されている明治時代に海軍が刊行した海図の状況が明らかになったが、調査が行われた図書館等の数は限られており、また、調査漏れの資料が少なからず存在することがわかったことから、2019年度以上に示した各館を含めた国内外の図書館・博物館を調査し、明治時代に海軍が刊行した海図の所蔵状況について明らかにすることとした。

現在ではほとんど全ての主要な図書館等において、所蔵カタログの検索をネットで行うことが可能になっている。今回の調査では、まず所蔵カタログ検索を行って、明治時代の海図が所蔵されている可能性が確認された場合にメール等で個別の問い合わせを行った。

以下では、この調査で明らかになった事実を中心に、国内外の図書館・博物館が所蔵する明治時代に刊行された海図について紹介する。

2 内国勸業博覧会出品海図

内国勸業博覧会は明治時代に国内産業発展と輸出品目育成を目的とした明治政府が主導する博覧会で、東京で3回、京都と大阪でそれぞれ1回開催されている。第1回から第3回までは東京上野を会場として、1877年、1881年、1890年にそれぞれ開催され、水路部はいずれにも海図の出品を行ったと水路部沿革史に記載されている。

水路部沿革史の明治10(1877)年8月の記事に「内国勸業博覧会開場ニ付本局出版海図五十四葉ヲ出品ス十一月閉会ニ臨ミ之ヲ博物局ニ寄附セリ」と記載されている。また、国立公文書館アジア歴史資料センターでは「内国博覧会へ出品之海図博物局へ納付致度儀ニ付上申」という1877年11月22日付の水路局長から海軍大輔に宛てた文書(JACAR(アジア歴史資料センター)レファレンスナンバー:C09112623900)が公開されている。

東京国立博物館のサイトで所蔵品検索を行った

ところ54図の海図が所蔵されており、問い合わせたところすべて明治初期の海図とのことであった。ご厚意によりその54図を閲覧する機会を2019年10月に与えていただいた。

54図は1877年までに刊行された海図で、すべての図で海部には水色で、陸部には茶系統の色で彩色されており、さらに何らかの方法でその上から全面コーティングされているようであった。また、金色の縁取りがされており、かなりの労力を費やして展示のために海図に化粧が施されたと考えられる。また、裏面には剥がした跡がありパネルに貼付して展示した後に剥がしたのではないかと想像される。

ただし、長年月にわたって円筒状に丸めて保管されていたため、図によっては状態の芳しくないものも含まれている。

第1回内国勸業博覧会に展示された54図の内訳は、国立国会図書館デジタルコレクションで公開されている「明治十年内国勸業博覧会出品目録」(<https://dl.ndl.go.jp/>:2020年7月8日確認)に記載されている。それと東京国立博物館が所蔵する54図を照合すると、目録にある「伊勢之國磯港之圖」が欠けているが、代わりに「奄美大島全圖」が東京国立博物館の54図に入っている。

1図だけ目録と異なるが、すべての図が1877年までに刊行された図で、同じ化粧が施されていることから、東京国立博物館が所蔵する54図は1877年の内国勸業博覧会に出品されたものに間違いなく、目録のほうに1図誤ったと思われる。

さらに、東京国立博物館には別の所蔵海図があることを教えていただき、2019年11月に閲覧する機会を与えていただいた。全部で海図91図と索引図3図で構成されており、全てパネルに貼付されている。しかし、上の54図のような化粧は施されていない。

水路部沿革史の1890年4月の記事として「第三回内国勸業博覧会開催セラレ部版海図中明治十四年第二回内国勸業博覧会ニ出品セシ以來ノ新刊若ハ大改正海図九十一種及海図索引三種ヲ出品ス」と記載されており、また、その内訳は明治

23年水路部年報に掲載されているが、それと照合したところ海図と索引図のタイトルは完全に一致した。

東京国立博物館は第1回及び第3回の内国勸業博覧会に展示された海図を関東大震災や東京大空襲で焼失することなく長年月にわたって保管してきたと考えられ、今後、これら海図のクリーニングが行われ、画像が東京国立博物館のサイトで公開されることを期待するものである。

なお、1881年の第2回内国勸業博覧会には57図、1895年に京都で開催された第4回内国勸業博覧会には14図の海図を出品したと水路部沿革史に記載されている。大阪で1903年に開催された第5回内国勸業博覧会には、海軍に代わって日本郵船会社が海図を出品している（神保，1904）。

水路部沿革史には、海外で開催された博覧会への海図の出品についても記載されている。その中の初めての出品が1876年のフィラデルフィア万国博覧会への54図の出品である。米国議会図書館には1875年までに刊行された50図の日本海図が所蔵されているが、刊行時期や所蔵海図の数から、フィラデルフィア万国博覧会に出品されたものではないかと考えられる。

3 大日本海岸実測全図

大日本海岸実測図は、海軍の測量成果に基づいて刊行された明治初期の海図を集めたアトラスで、海洋情報部、国立国会図書館、国立公文書館がそれぞれ1冊ずつ所蔵していることが従来から知られている。

中嶋（1988）が紹介しているが、海洋情報部が保管する大日本海岸実測図には1878年までに刊行された61図が収められている。海洋情報部が所蔵する明治初期の海図のほとんどはこの大日本海岸実測図所収の図である。関東大震災当時は海軍の水路部以外の部門が保管していた大日本海岸実測図を、震災後に水路部に移管したものと考えられる。

国立国会図書館が所蔵する大日本海岸実測図に収められている海図数は海洋情報部のものよりも

多く、1879年に刊行された海図まで含まれている。この大日本海岸実測図には、陸軍文庫の印が押されており、当初は海軍から陸軍に提供されたものと考えられる。

国立公文書館の大日本海岸実測図に収められている海図の画像は国立公文書館デジタルアーカイブ（<https://www.digital.archives.go.jp/>、2020年7月13日確認）で公開されており、収められている海図の数は国会図書館のものよりさらに多く、1880年刊行の海図まで含まれている。

以上のように、3つの機関で保管されている大日本海岸実測図は、それぞれ作成年月が異なると考えられ、海洋情報部のものが一番古く、次いで国立国会図書館が古く、国立公文書館のものが最も後に作成されたものと考えられる。

1878年に柳橋悦水路局長は欧米各国の天文台等の視察を行っている。なかでもオーストリアのウィーン天文台とオランダのライデン天文台から教わることも多く、貴重な資料の提供を受けたことから、1878年末に出版海図一揃を返礼として寄贈している（JACAR：レファレンスナンバーC09113083800）。

現在、両天文台はそれぞれウィーン大学とライデン大学の施設となっているので、両大学の図書館の蔵書検索を行ったところ、ライデン大学図書館が日本海図のアトラスを所蔵していることがわかった。ライデン大学図書館に問い合わせたところ、アトラスの目次の画像が送られてきた。

その英文の目次は、日本に3冊ある大日本海岸実測図のうち、最も古く作成されたと考えられる海洋情報部所蔵のものと全く同一であった。つまり、ライデン大学図書館が所蔵する日本海図のアトラスは、1878年までに刊行された海図で構成されている海洋情報部が保管する大日本海岸実測図と同一のものだとわかったのである。1878年までの海図で構成されていることから、1878年末に柳が返礼として送ったものであることは間違いないと思われる。

このことから、大日本海岸実測図と称する日本海図アトラスは、柳の欧米視察の返礼として初め

て作成され、ウィーン天文台とライデン天文台に寄贈されるとともに、海軍にも1冊残されたものであり、その後も新たな海図を追加改訂していったものだと考えられるのではないだろうか。

ライデン大学図書館からは、もう1冊日本海図のアトラスを所蔵しているという情報もたらされた。このアトラスは、2013年にオランダ王立東南アジア・カリブ海研究所からライデン大学図書館に移管されたもので、上述のアトラスに1879年と1880年に刊行された海図が追加された構成になっており、これも大日本海岸実測図だと考えられる。国内で存在が確認できない海図番号114号小浜港等、国立公文書館の大日本海岸実測図所収の海図よりも後に刊行された海図も含まれていることから、現存する大日本海岸実測図の中ではもっとも遅くに作成されたものとなる。

来日したオランダの軍艦“Koningin Emma”に対して1881年8月に実測刊行海図一揃を贈ったとの記録（JACAR：レファレンスナンバーC11082014500）があることから、ライデン大学図書館の2冊目の大日本海岸実測図は、この軍艦がオランダに持ち帰った大日本海岸実測図ではないかと考えられる。

4 海軍省寄贈海図

京都大学総合博物館が「海軍省寄贈」という印を押された明治時代に刊行された海図を多数保有していることが知られている（山村，2004）。これら海図については、東北大学外邦図デジタルアーカイブ（<http://chiri.es.tohoku.ac.jp/~gaihozu/>）において画像が公開されている。

国立公文書館アジア歴史資料センターが公開している文書には、海軍による海図寄贈に関する文書が多数見つかる。その文書の中に1908年3月27日付の京都帝国大学総長から海軍次官にあてた地理学講座開設にあたって地理学研究並びに教授用として海図と水路誌すべての寄贈を求める文書とそれに応じる旨の4月7日付の海軍次官から総長への回答、さらに礼状や受領証といった一連の文書がある（JACAR：レファレンスナンバー

C06091987100）。この時海図については658枚京都帝国大学附属図書館が受領したと記録されており、京都大学総合博物館所蔵の規模と刊行時期が一致することから、京都大学総合博物館が所蔵する「海軍省寄贈」海図は、1908年に海軍省が寄贈したものであることは間違いない。

帝国大学関係では、同じ京都帝国大学に1900年に、東北帝国大学に1911年に海図一揃を寄贈した記録もある（JACAR：レファレンスナンバーC10127060900, C07090119300）。また、アジア歴史資料センターの一連の文書から東京帝国大学には1880年頃から数年間、海図を刊行する都度2枚ずつ提供していたことが伺える。

また、東京海洋大学海洋科学部の前身である水産伝習所にも1892年に当時の刊行海図を全部寄贈し、その後は、海図新刊の際にその都度送付していたと記録されている（JACAR：C10126726200）。高等教育機関への配慮から寄贈が行われていたようであるが、現在これらの海図は遺っていないようである。

以上のほかにも、国内の機関や外国艦船等への寄贈の記録がアジア歴史資料センターから多数公開されているが、2020年2月時点で京都大学総合博物館とライデン大学図書館以外には、海軍省寄贈の海図が保管されている事例は見つからない。ただし、フランス国立図書館にはフランス水路部から移管された大量の古海図が整理されずに残されているとのことなので、将来、整理されて古い日本の海図が見つかるかもしれない。

5 明治初期の海図の所蔵状況

明治初期に刊行された海図を所蔵する図書館等は限定されているので、海軍に水路局が創設されてから10年間の1871年から1880年までに刊行された海図について、国内外の図書館・博物館・文書館の所蔵状況をTable 1にとりまとめた。主にそれぞれの館蔵カタログの検索結果により所蔵の有無を確認している。

対象とした図書館等は国内が海洋情報部を含め11館、国外が5館で、黒丸あるいは赤丸で所蔵

Table 1. List of Japanese nautical charts published before 1880 in the collections of the following libraries, museums and archives: Hydrographic and Oceanographic Department, National Diet Library, National Archives, Tokyo National Museum, Archives of Hokkaido, Yamaguchi Prefectural Archives, Hokkaido University, University of Tsukuba, Waseda University, Historiographical Institute, Kyushu University, National Museum of Korea, Library of Congress, Leiden University, National Library of France, and the British Library. Published year and month are shown in 4 digits, consisting of last 2 digits of the year and 2 digits standing for the month. Red circles denote that images are shown on the web as of February 2020. Background colors of titles denote the areas of charts. Orange: overseas, Blue: Hokkaido, Aomori, and Iwate, Green: Okinawa and Kyushu.

海図番号	発行年月	図名	海洋情報部	国会図書館	国立公文書館	東京国立博物館	北海道文書館	山口県文書館	北海道大学	筑波大学	早稲田大学	東大史料編纂所	九州大学	韓国中央博物館	米国議会図書館	ライデン大学	仏国立図書館	大英図書館
1	7208	陸中國釜石港之圖		●	●	●			●			●			●			
2	7209	根室國野附灣之圖	●		●	●			●	●		●			●			
3	7210	陸中國宮古港之圖		●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
4	7211	後志國壽都港之圖	●		●	●			●	●		●			●	●	●	●
5	7211	後志國小樽港之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
6	7301	渡島國箱館港之圖			●				●	●					●			
8	7301	根室國瑤瑤海門全圖	●		●				●	●					●			
7	7304	伊豆國下田港之圖			●				●	●		●			●			
9	7306	武蔵國東京海灣圖	●	●	●	●	●	●	●	●		●			●	●	●	●
10	7306	津輕海峽之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
21	7307	朝鮮全圖			●				●	●		●			●			
18	7308	琉球國運天港之圖	●		●	●		●	●	●	●				●	●	●	●
11	7309	伊勢之國磯港之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
62	7309	大島神瀬補測之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
17	7311	八重山全島圖	●	●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
12	7401	薩摩國山川港之圖	●	●	●	●			●	●		●	●		●	●	●	●
61	7401	寧波府舟山島岸定海港/泉州府東南岸泉州港			●	●			●	●		●			●	●	●	●
13	7402	臺灣島多口港之圖		●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
14	7402	臺灣島噶嘍港之圖		●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
15	7402	臺灣島國姓港之圖		●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
16	7402	臺灣島淡水港之圖		●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
22	7402	清國東海岸廈門港之圖		●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
23	7402	八重山島石垣港圖	●	●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
24	7402	琉球群島西部慶良間海峽圖	●	●	●	●	●		●	●	●				●	●	●	●
25	7403	大隅國口永良部島港圖/屋久島一湊之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
26	7403	薩隅内海之圖	●	●	●	●	●	●	●	●		●			●	●	●	●
28	7403	樺太國楠溪海岸圖	●	●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
30	7404	臺灣南部之圖		●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
31	7404	臺灣島清國屬地部		●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
32	7404	臺灣全島之圖		●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
33	7404	車城/錨地			●				●	●	●				●	●	●	●
19	7405	大琉球那霸港之圖	●	●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
20	7405	根室國根室港之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
27	7406	釧路國厚岸港之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
34	7406	琉球群島之圖	●	●	●	●			●	●	●				●	●	●	●
51	7406	支那海不臘達新礁脈/福建漳州府銅山港			●	●			●	●		●			●	●	●	●
40	7407	登州府福山縣之累港/萊州府東南岸膠州灣	●		●	●			●	●	●				●	●	●	●
44	7407	江蘇鎮江府具淞江口/浙江寧波府甬江口			●	●			●	●		●			●	●	●	●
35	7408	大日本奄美大島海峽西部圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
41	7408	登州府蓬萊縣正北廟嶋海峽/黃海北西部海洋島錨地			●	●			●	●		●			●	●	●	●
42	7408	江蘇省東岸洋子江/福建省泉州府閩頭及深瀝			●	●			●	●		●			●	●	●	●
39	7409	武蔵國橫濱灣	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
43	7409	福建福州府閩江			●	●			●	●		●			●	●	●	●
46	7409	廣東廣州府英領香港嶋			●	●			●	●		●			●	●	●	●
48	7410	臺灣府鳳澎湖諸島			●	●			●	●		●			●	●	●	●
49	7410	清國北直隸海灣圖			●	●			●	●		●			●	●	●	●
50	7410	舟山群島諸海峽			●	●			●	●		●			●	●	●	●
54	7502	朝鮮東海岸圖			●	●			●	●		●			●	●	●	●
57	7502	金角港婆衣婆大灣			●	●			●	●		●			●	●	●	●
56	7503	太祖伯德灣			●	●			●	●		●			●	●	●	●
60	7503	朝鮮國釜山港			●	●			●	●		●			●	●	●	●
58	7504	大日本海西岸圖			●	●			●	●		●			●	●	●	●
37	7506	陸奧内海野邊地灣	●	●	●	●	●		●	●		●			●	●	●	●
52	7506	陸奧内海青森灣圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
36	7510	陸奧内海安波灣圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
38	7510	陸奧國大畑浦之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
29	7511	大島名瀬港圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
53	7512	壁河之圖第二			●	●			●	●	●				●	●	●	●
55	7512	壁河之圖第一			●	●			●	●	●				●	●	●	●
59	7512	高麗西岸小稜河之路圖			●	●			●	●	●				●	●	●	●
47	7603	相模國須賀之圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
60	7603	朝鮮國釜山港	●	●	●	●			●	●		●		●	●	●	●	●
69	7606	渡島國福島灣	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
70	7606	陸奧國三股灣	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
71	7606	朝鮮國西岬濟物浦泊地略測圖	●	●	●	●			●	●		●		●	●	●	●	●
72	7606	五島鯉之浦略測圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
73	7606	五島若松浦略測圖	●	●	●	●			●	●		●			●	●	●	●
75	7606	朝鮮南岸漢江口頂山泊地略測圖	●	●	●	●			●	●		●		●	●	●	●	●

表 1. 以下の図書館・博物館・文書館に所蔵されている 1880 年までに刊行された日本の海図。海洋情報部，国立国会図書館，国立公文書館，東京国立博物館，北海道文書館，山口県文書館，北海道大学，筑波大学，早稲田大学，史料編纂所，九州大学，韓国中央博物館，米国議会図書館，ライデン大学，フランス国立図書館，大英図書館。刊行年月は年の下二桁と月の二桁で示す。赤丸はウェブで画像が公開されていることを示している（2020 年 2 月確認）。図名の背景色は海図の対象地域をしめしている。橙：国外，青：北海道，青森，岩手，緑：沖縄，九州。

海図番号	発行年月	図名	海洋情報部	国会図書館	国立公文書館	東京国立博物館	北海道文書館	山口県文書館	北海道大学	筑波大学	早稲田大学	東大史料編纂所	九州大学	韓国中央博物館	米国議会図書館	ライデン大学	仏国立図書館	大英図書館
76	7606	朝鮮國巨濟島加背梁略測圖	●	●	●	●								●			●	●
77	7606	長門國彦島福浦港	●	●	●	●			●			●					●	●
64	7607	對馬國網代灣	●	●	●	●		●	●			●					●	●
74	7607	朝鮮國巨濟島猪仇味略測圖	●	●	●	●						●		●			●	●
45	7610	奄美大島全圖	●	●	●	●			●	●		●					●	●
63	7610	對馬國嚴原及阿須港	●	●	●	●			●	●		●					●	●
67	7610	朝鮮南岬全羅道順天浦略測圖	●	●	●	●				●		●		●			●	●
66	7612	豐後國佐賀關	●	●	●	●			●	●		●					●	●
78	7612	朝鮮國南岬巨濟島及關山海	●	●	●	●				●		●		●			●	●
80	7701	慶尚道海岸圖	●	●	●	●				●		●		●			●	●
68	7703	伊豫宇和島灣	●	●	●	●			●			●					●	●
79	7703	朝鮮國京畿道月尾島海峽略測圖	●	●	●	●				●		●		●			●	●
84	7703	伊豆國田子及安良里島之圖	●	●	●	●			●			●					●	●
82	7704	伊豆國妻良子浦兩島圖	●	●	●	●			●			●					●	●
81	7705	陸前國石之巻灣略測圖	●	●	●	●	●					●					●	●
88	7706	伊豆國熱海近海圖	●	●	●	●			●			●					●	●
65	7707	清國沿岸諸省圖		●	●	●												
83	7707	太平洋航跡圖		●	●	●												●
86	7707	相模國江ノ島錨地	●	●	●	●						●					●	●
87	7707	相模國小網代港圖	●	●	●	●						●					●	●
92	7707	駿河國江之浦灣圖	●	●	●	●						●					●	●
89	7708	駿河國清水港之圖	●	●	●	●	●					●					●	●
94	7710	豐後國猪之串港略測圖	●	●	●	●						●					●	●
95	7804	日本海岸全圖		●	●	●	●										●	●
85	7805	伊豆國戶田港之圖	●	●	●	●						●					●	●
91	7805	相模國浦賀港之圖	●	●	●	●						●					●	●
2	7806	根室國野附錨地	●	●	●	●			●			●					●	●
8	7807	根室國瑤瑤水道之圖	●	●	●	●	●					●					●	●
1	7811	陸中國釜石港	●	●	●	●						●					●	●
7	7811	伊豆國下田港之圖	●	●	●	●						●					●	●
97	7811	奄美大島燒内灣	●	●	●	●						●					●	●
93	7812	北海道東部	●	●	●	●			●			●					●	●
3	7902	陸中國宮古港	●	●	●	●						●					●	●
4	7902	後志國壽都港	●	●	●	●			●			●					●	●
98	7903	朝鮮國南岸蛇梁島狹口略測圖/熊川灣略測圖	●	●	●	●						●		●			●	●
99	7904	陸中國大槌灣略測圖	●	●	●	●						●					●	●
100	7904	朝鮮國忠清道淺水灣門	●	●	●	●						●		●			●	●
101	7904	朝鮮國長浦江略圖	●	●	●	●						●		●			●	●
102	7904	朝鮮國新浦錨地・永興灣・德源灣	●	●	●	●						●		●			●	●
90	7906	東京海灣	●	●	●	●						●					●	●
103	7907	肥後國草野岡灣・肥前口之津灣圖	●	●	●	●						●					●	●
107	7907	隱岐國西郷港	●	●	●	●						●					●	●
6	7908	渡島國箱館港	●	●	●	●						●					●	●
105	7910	土佐國須崎及野見港	●	●	●	●						●					●	●
5	7911	後志國小樽港	●	●	●	●			●			●					●	●
96	7911	伊豆之國南海岸之圖	●	●	●	●			●			●					●	●
104	8002	肥前早崎水道	●	●	●	●						●					●	●
106	8002	平戸海峽附江袋灣	●	●	●	●						●					●	●
108	8002	肥前國長崎港	●	●	●	●						●					●	●
109	8005	肥後國天草崎津浦	●	●	●	●						●					●	●
114	8005	若狹國小濱港	●	●	●	●						●					●	●
110	8006	陸中國山田港	●	●	●	●						●					●	●
111c	8006	大日本海岸全圖第三 自石室崎至御前崎		●	●	●						●					●	●
119	8006	牙山錨地	●	●	●	●						●		●			●	●
120	8006	肥前國呼子港	●	●	●	●						●					●	●
115	8007	長門國油谷港	●	●	●	●			●			●					●	●
118	8007	越中國 伏木錨地/佐渡國 小木港	●	●	●	●			●			●					●	●
111b	8010	大日本海岸全圖第二		●	●	●						●					●	●
116	8010	能登國七尾北灣	●	●	●	●						●					●	●
122	8010	長門洞錨地略測圖	●	●	●	●						●		●			●	●
123	8010	志摩國の矢港	●	●	●	●						●					●	●
111a	8011	大日本海岸全圖第一 自洲崎至城ヶ島		●	●	●						●					●	●
112	8012	肥後國八代灣	●	●	●	●						●					●	●
117	8012	丹後國宮津灣	●	●	●	●						●					●	●
124	8012	隱岐列島	●	●	●	●						●					●	●
125	8012	對馬國竹敷港	●	●	●	●						●					●	●

● 国外 ● 北海道・青森・岩手 ● 沖縄・九州

していることを示している。このうち、赤丸は、それぞれの機関のホームページで画像を公開（2020年2月確認）していることを示している。この16館以外にも、オーストラリア国立図書館、国立台湾図書館等も1880年までに刊行された図を所蔵しているようであるが、所蔵している数が少ないので表からは除外した。

海洋情報部が所蔵する明治初期の海図は限定的であるが、国内外の図書館等で現在確認することができない海図はごく少数であり、いろんな図書館等を訪問すれば、刊行されたほとんどの海図を閲覧することができる。

水路局創設から明治10（1877）年頃までに刊行された海図は比較的多くの図書館等に所蔵されているが、それ以降に刊行された海図の所蔵は少ない。明治10年代（1877-1886年）に刊行された海図は最も稀少価値の高い海図である。近年整理が行われた赤門書庫旧蔵地図と東京国立博物館が所蔵する海図により明治10年代の海図の状況を伺うことができるようになったと言える。

Table 1では、海図の対象となる地域で色分けを行っている。表に示した1880年までの海図の刊行地域は、北海道、南西諸島、外国地域にほぼ集中している。これは、海軍の艦船が行動するために海図が整備されていたことを示している。幕末から明治初期にかけて海外との貿易に従事する船舶は日本周辺の航海においても主として英国の海図を使用していたことから、その航路周辺の海図をわが国が急いで整備する必要はなく、海軍の艦船に必要な海図が優先的に刊行されていたのであろう。1879年に三池炭鉱の石炭積出港であった口之津港の海図が刊行され、1880年になって初めて江戸時代からの貿易港である長崎港の海図が英国海図の覆版で刊行される。この頃から水路局において海運のための海図の整備が進められることになるが、その時期に刊行された海図が遺っていないのである。

謝 辞

東京国立博物館の田良島哲氏、富坂賢氏をはじめ

めとする皆様には所蔵する海図に関する情報を提供していただくとともに、内国勸業博覧会出品海図の閲覧の機会を2度にわたり与えていただきました。筑波大学図書館には1870年代刊行の多数の海図を閲覧する機会を与えていただきました。ライデン大学図書館のMartijn Storms氏には所蔵する日本海図アトラスに関する有用な情報を提供いただきました。東北大学理学部地理学教室からは、京都大学総合博物館が所蔵する膨大な数の海図の画像を提供いただきました。国土地理院からも海図画像を提供いただきました。

国立国会図書館、早稲田大学図書館、一橋大学図書館、愛媛大学図書館の各館には所蔵する海図の借用をお許しいただき、画像の作成をさせていただきました。

ここに感謝の意を表します。

文 献

- 神保小虎（1904）第五回内国博覧会に於ける日本地理の材料，地質学雑誌，11，[131]，334-344。
- 中島 逞（1988）「大日本海岸実測図」の紹介と岬角名への埼の使用について，水路部技報，6，51-61。
- 鈴木純子（2015）「赤門書庫旧蔵」の海図群—概要と特色—，近代移行期歴史地理把握のタイムカプセル「赤門書庫旧蔵地図」の研究，東京大学史料編纂所，35-49。
- 山村亜希（2004）京都大学総合博物館収蔵外邦図の目録作成作業について，外邦図研究ニューズレター，2，74-77。

要 旨

明治時代に日本の海軍が刊行した海図の国内外の図書館・博物館の所蔵状況の調査を2019年に実施した。その結果、以下の新たな事実が判明した。

1877年と1890年に開催された第1回と第3回の内国勸業博覧会に出品された海図が東京国立博物館に保管されていること。

明治初期に海軍が自らの測量に基づいて編集した海図のアトラスである大日本海岸実測図がオランダのライデン大学図書館に2冊保管されていること。

京都大学総合博物館が「海軍省寄贈」の印が押された多数の明治時代の海図を所蔵しているが知られているが、国立公文書館の資料によりこれら海図は京都帝国大学の求めに応じて1911年に海軍が寄贈したものであることがわかった。